

2021年度

国 際 学 部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領……………	3
専門ゼミナール選択指導について……………	4
2021年度専門ゼミナール I 一覧表……………	6
2021年度専門ゼミナール I 概要……………	8

国際学部

専門ゼミナール選択要領

本年度の専門ゼミナール選択は、オンラインで行います。

本オリエンテーション資料の公開をもって専門ゼミナール選択の開始とします。

○オリエンテーション資料類の掲載：2020年9月17日(木)

○場所:教育支援課ホームページおよびGoogle Drive

○配信内容

- ① 2021年度国際学部専門ゼミナール選択オリエンテーション資料(本資料)
- ② 各専門ゼミナールの概要(シラバス等)

*スケジュール

資料公開	ゼミ選択期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
9/17(木)	9/18(金)～ 10/16(金)	10/16(金) 23:59	11/11(水) 23:59	11/27(金) 23:59

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】

—2020 年度専門ゼミナール選択指導について—

2020/9/17

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

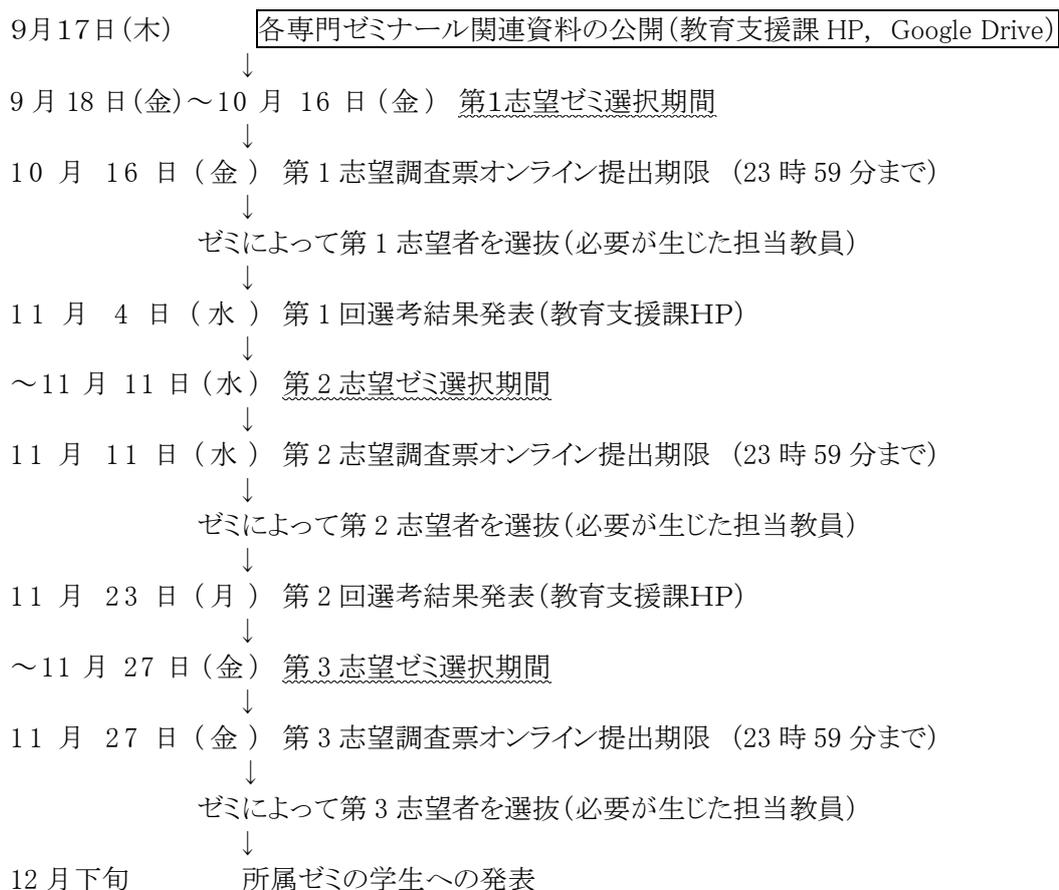
- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間(専門ゼミナール I ～IV)にわたり同じ教員のもとで指導を受けることになります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員(9 名)、最大定員(最も多い場合で 18 名)**とします。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者数が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生諸君は、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) **1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。ただし、志望者が1名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者がいなかった専門ゼミナールについては非開講となります。**
- (5) **1 年次の領域選択時のアナウンスに則り、専門ゼミ選択は皆さんの所属学科・領域にかかわらず、原則として自由に選択することができます。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となったり、学生を指導していく上で目標が達成されない恐れがあったりする場合において、担当教員は自身が所属する学科の学生(あるいは別の学科の学生)を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を「各専門ゼミナール概要資料」に記載していますので、資料をよく読んで精査してください。**

2. 専門ゼミ選択のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) **専門ゼミナール選択オリエンテーション資料一式を 9 月 17 日(木)より教育支援課ホームページで公開します。この資料には以下が含まれています。**
 - ① 2021年度国際学部専門ゼミナール選択オリエンテーション資料(本資料)
 - ② 各専門ゼミナールの概要(シラバス等)
- (2) 皆さんは約1か月のゼミ選択期間に「各専門ゼミナールの概要」をよく読み、各ゼミが提供する付属資料(Google Drive※1)などの閲覧、任意で開かれる説明会への参加、教員とのコンタクトなどを積極的に行って情報を集め、志望ゼミを選択するように努めてください。なるべく多くのゼミを見て志望を検討することを勧めます。なおこれらのコンタクトを行った日時や内容は、志望調査票提出時に必要となりますので、各自で記録しておいてください。
- (3) A～E先生に質問がある場合は各学科長(国際理解学科:齊藤先生、国際観光学科:菅原先生)、もしくは教務委員長(小島)までご連絡ください。
- (4) 皆さんは、**志望調査票(Google Form※2)より、10月16日(金)までに第1志望ゼミを提出してください。**
- (5) 第1回選考でゼミが決定しなかった学生は、第2回以降の選考で決定します。
- (6) その他、疑問等がある場合には教育支援課、あるいは教務委員長の小島先生までご相談ください。

※1、※2は教育支援課からのお知らせ本文に記載しています。

<参考> 専門ゼミ選択指導のスケジュール



2021年度 国際学部 専門ゼミナール I 一覧

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入上限	研究室
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	6213
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成 コミュニケーション能力育成のための英語指導法	教職科目全般	10名	6309
3	生田 祐子	理解	English for Global Engagement (国際貢献と英語)	英語コミュニケーション論、英語・社会科学教職関連科目など	9名	6407
4	榎本 アンドリュー	理解	American Minority Studies	English essay writing and other English electives	10名	6215
5	岡本 修爾	観光	訪日インバウンド、MICEマネージメント、トラベルビジネス	特になし(シラバス参照)	11名	6221
6	奥田 孝晴	理解	「国際学の鍋」づくり:「知の運動の守備範囲」はイチロー並みに広く、大迫のようにハンパナイ。	特になし(シラバス参照)	11名	6406
7	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズムと持続可能な地域づくりーエコツーリズム・プランナーになろう!	地域プロジェクト演習、国際学研究Aなど。3年次にはエコツーリズム論を履修すること。	15名	6307
8	金井 恵理可	理解	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない。)	11名	6418
9	北野 マグダ	理解	Culture in Media	ESP F, debate and discussion English electives	10名	6412
10	小島 克巳	観光	交通事業・交通政策研究 ～観光や地域における交通事業の役割と交通政策のあり方～	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論	12名	6317
11	椎野 信雄	観光	<社会>の現実、を自分なりに理解し、日常生活を送っていくための知恵を身につけ、「社会人」「市民」として社会に生きていくこと	特になし(シラバス参照)	9名	6314
12	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成	英語オーラル・コミュニケーション論、英語とメディア	12名	6315
13	清水 麻帆	観光	文化を基盤とした地域振興(文化経済学・地域振興論 研究ゼミ)	特になし	12名	6308
14	菅原 周一	観光	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業・業界(エアライン、ホテル、ブライダル業、旅行業等の観光業を含む)に関する研究	特になし	15名	6415
15	杉山 富士雄	観光	食う・寝る・遊ぶの経済学	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目	9名	6212
16	孫 美幸	理解	ホリスティックアプローチを通して多文化共生社会を考える	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群	13名	6312
17	千葉 克裕	理解	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学など	9名	6304

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入 上限	研究室
18	林 薫	理解	「持続可能な世界の実現」	「開発と国際協力」、「資源と国際協力」	11名	6306
19	黛 陽子	観光	* サステイナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み * バリ島ではエスニックツーリズムの学びも深める * ヘリテージ・インタープリテーションの技術と取組みの精神の学び 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策提示」	インタープリテーション論(理論・応用)は ゼミ生全員3年時に必ず受講	12名	6417
20	丸山 鋼二	理解	国際政治史、現代中国の諸問題、日中韓関係、中国語など	「近現代史基礎」「外国史A・B」「地域研究 (東アジア)」「現代中国論」「英語音声学」 など、テーマにより異なる(シラバス参照)	9名	6408
21	宮原 辰夫	観光	ゼミ生と相談して決定する	特になし	11名	6405
22	本浜 秀彦	理解	国際日本研究	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と 歴史」など	9名	6311
23	山崎 裕子	理解	世界の文化と宗教を哲学する	特になし	9名	6410
24	山田 修嗣	理解	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性 の考察～	特になし	11名	6209
25	渡邊 暁子	理解	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード:文化人類学、宗教、貧困、格差、社会的排除、 移民・難民・国際労働移動、マイノリティ、コミュニティ	「文化人類学」「国際協力論」「紛争と国 際協力」「開発教育論」「NPO・ボラン ティアの理論」	12名	6305
26	A	理解	国際法・国際関係論	2021年度着任予定	18名	—
27	B	観光	ホスピタリティ	2021年度着任予定	18名	—
28	C	観光	宿泊産業・ホテルサービス・マネジメント	2021年度着任予定	18名	—
29	D	観光	交流文化・文化政策	2021年度着任予定	18名	—
30	E	観光	経営学・ビジネス論・マネジメント論	2021年度着任予定	18名	—

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@bunkyo.ac.jp
研究室	6213
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、地歴科教育法Ⅰ、公民科教育法Ⅰ、総合演習、4年・3年ゼミ、教育実習(中学) [秋学期] 道徳教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、地歴科教育法Ⅱ、公民科教育法Ⅱ、教職実践演習、(越谷 特別活動)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道徳教育を中心として、教育学全般に関心があります。 ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関するものでしたら、何でもOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレル子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。 これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。 実践的指導力のある教師を目指して、共に歩んでいきましょう。
ゼミの進め方	① 3年春学期は、幼稚園児や中学生等との交流学习の企画・準備・実践を行います。 ② 3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。 ③ 4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④ 卒論執筆と同時に、幼稚園児や特別支援学級の生徒との交流会、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、1年教職課程学生に「楽校」実践、卒論検討合宿、愛の湘南PK、カンボジア・スタディツアーなどを行います。 「幼稚園児から教育長まで」ふれあって、教師としての実践的指導を養っていきます。
留意事項 (Requirement など)	以下の2つの活動に必ず参加していただきます。①茅ヶ崎市内中学校サマースクール支援②カンボジア・スタディツアー
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
代表的な卒業論文のテーマ	自己有用感を高める特別活動、「生きている」を実感するための人間教育外遊びで形成される「共生」能力 など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマのもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「人を愛する教育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。 人と人とのふれあいを大切に、実際に「幼稚園児から教育長まで」ふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、絶対教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。 (4年)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@bunkyo.ac.jp
研究室	6309
出講日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・(2020年度は金曜日も)
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、英語教育研究、教育実習 A、大学院科目 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	ほぼ毎日大学にいます。みなさんの都合に合わせてオンラインでも対面でもお話しできます。メールで希望の時間を連絡ください。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を主な対象としたゼミです。学校教育における小学校、中学校、高等学校での英語の授業を大きな枠組みの中で捉え、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。日本の英語教育は、2020年に大きな転換期を迎えました。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから輩出したいと思っています。主役はあくまでもゼミ生。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきます。
ゼミの進め方	英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします。並行して、イベント（小中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表、海外の大学との合同ゼミなど）に向けての準備をします。学校など英語教育現場への訪問やゼミ合宿などを随時実施します。4年生は卒業論文の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います。
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習指導、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して主体的に取り組みましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、教職科目全般。
定員	学校訪問等の実施をふまえて、10名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行い、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。メンバー決定後に、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶ英語の授業」「学力差に応じた英語指導」「英語の楽しさを伝える授業作り」「小中連携を意識した英語教育」など
所属ゼミ生（先輩）からの一言	阿野ゼミナールでは、日々大きく変革していく英語教育に沿って、常に新しい学びをしています！学校現場である小学校や中学校、高校に赴き実際の授業を見学したり、英語セミナーで実際の生徒と英語教育を通して触れ合ったりと、多くの実践的な学びをしています。これらの活動を通し自己を成長させることはもちろん、仲間と協力し高め合いながら楽しく充実した日々を過ごすことができるゼミナールです。是非、阿野ゼミの一員となって残りの学生生活を素敵なものにしてみませんか？！（4年ゼミ長 城田明奈） 2年生の皆さん、こんにちは。阿野ゼミでは、主に英語教育を中心に日々、学びを深めています。ゼミ内では、実際に学校訪問をして授業とは、教師とはどのようなものかを考え、学びます。ゼミのメンバーと一緒に、ディスカッションなどを通して、自分たちの力に繋げていきます。小・中・高の教師に本気でなりたい人、英語教育に興味がある人、一緒に頑張りましょう！（3年ゼミ長 大場百華）

担当者名	生田 祐子 (いくた ゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@bunkyo.ac.jp
研究室	6407 (6号館4階)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4時限と5時限 (見学は4時限のみ) ゼミ見学予定日: 9月25日・10月2日・10月9日
担当科目	英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 英語科教育法 IV 応用演習 基礎ゼミナール 専門ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	Google Drive 内へ詳細を発信しますので、時間を予約ください。 ゼミ見学希望者へは Zoom の URL と参加方法を配信します。
ゼミのテーマ	English for Global Engagement (国際貢献と英語)
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、グローバル化する社会と言語の諸相を学びつつ、英語教育から国際協力の仕事まで、様々な分野で国際貢献ができる 英語コミュニケーション力 を養います。コロナ禍を経て、デジタルで世界と繋がるのが日常となり、次代を担うみなさんには異なる言葉話す人たちと共に生きていく「 英語によるグローバルな対話力 」が求められます。模擬国連や国際協力の活動に参加し、専門的かつ実践的な英語を使う環境を経験しませんか。根幹を流れるゼミのテーマは 国際理解と平和、英語はゼミ内言語= EMI (English as a Medium of Instruction) です。 <u>こんな学生におすすめ</u> : 国際理解教育の視点から英語教育を担う教員を目指す、グローバル+平和教育や日本語教育に関心がある、グローバル企業で働きたい、通訳や翻訳を仕事にしたい、大学院へ進学し国連や JICA のような国際機関にチャレンジしたい思いがある学生。
ゼミの進め方	3年生: 英語脳を鍛え、英語で呼吸! 1. 英語による模擬国連(JUEMUN)活動参加: テーマは SDGs より 2021年度は京都外国語大学 or オンラインで開催 (春学期)。 → 大量の英語資料を読み込み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. マレーシアの国際協力スタッフとの交流及び現地小中高生への教育支援をオンラインで実施 (秋学期に予定)。 3. 国際機関や教育機関でのインターン、日本語教師・通訳ボランティア、英語教育、国際理解教育の研修への参加を奨励。(休暇中) 4. 英語力の目標は英検準1級/TOEIC800点以上とします。 4年生: 卒業研究と進路の開拓! 社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野のテーマを中心に日本語で執筆、発表は原則英語です。進路の相談はいつでもどうぞ。
留意事項 (Requirement など)	1. New York 国連研修に参加 (2月にオンライン開催予定) 2. 3年次春学期に「社会言語学」「通訳入門」を履修
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語・社会科教職関連科目など
定員	卒論等の個人指導の時間を考慮し、最少人数の9名とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	英語による面接および TOEIC・CASEC・英検等の最高点の提出
ゼミ受入決定者への指示	決定後、対面またはオンラインで顔合わせをします。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』 “Environmental Factors when English becomes a Lingua Franca” 『英語がリングフランカになるための環境要因』 “Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	模擬国連の3日間とその準備期間の3ヶ月は短期留学以上の緊張感と達成感を味わい、英語を使って仕事をするレベルの目標が明確になりました。ゼミ友と切磋琢磨しつつ、英語圏への長期留学を目指しています。(4年 K.I.)

担当者名	榎本アンドリュー (えのもと あんどりゅー)
e-mail アドレス	aenomoto@bunkyo.ac.jp
研究室	6215
出講日	月水木金
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	EIC 101, EIC 102, ESP E
研究室を訪問できる時間帯	月 3, 金 3 時限
ゼミのテーマ	American Minority Studies
ゼミの内容・メッセージ	American Minority Studies provides a multidisciplinary analysis of the subordinate/dominant statuses of individuals and groups by recognizing the impact of race/ethnicity, gender, and socioeconomic class of individuals and groups in relationship to American society. The course is designed to foster critical analysis of the issues of difference in our society and to prepare students to understand and interact with people from diverse backgrounds and cultural perspectives throughout their lives. Art, literature, historical analysis, economic analysis, and/or music will be utilized to understand the cultural differences.
ゼミの進め方	Students will go through an in-depth analysis of four minority groups in the US: African Americans, Asian Americans, Hispanics, and LGBT. Students will also work on their final thesis throughout the year.
留意事項 (Requirement など)	The class will be conducted in English. All of the materials are in English, so students should come to class prepared to discuss and analyze materials. A strong command of English along with a strong desire to interact with authentic English materials are recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	English essay writing and other English electives
定員	10 人
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	Interview (In English)
ゼミ受入決定者への指示	Students should read the international news and keep up-to-date with current events, especially in the United States.
代表的な卒業論文のテーマ	The past, present, and future of African Americans in the American Music Industry, The Case of Middle Eastern Immigrants and Refugees in the United States, How the LGBT community has influenced sports in the United States.

担当者名	岡本 修爾 (おかもと しゅうじ)
e-mail アドレス	okapna12@bunkyo.ac.jp
研究室	6221
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 (専門ゼミナールⅠ・Ⅱ)、 金 5 (専門ゼミナールⅢ・Ⅳ)
担当科目	国際観光とマーケティング、旅行法規、トラベルビジネス論、 トラベル実務
研究室を訪問できる時間帯	原則、出講日の昼休み。事前にメールでご連絡ください
ゼミのテーマ	訪日インバウンド、MICE マネージメント、トラベルビジネス
ゼミの内容・メッセージ	世界の Tourism はダイナミックに変貌しつつあります。日本における Tourism 振興の歴史は浅く、日本の Tourism はいまだ発展途上であり、今後も発展の余地があります。日本が「観光先進国」に成長していくには何が必要かを研究していきます。
ゼミの進め方	観光はすそ野の広い産業と言われています。観光の推進、特にインバウンドや MICE ビジネスの拡大の中で、ゼミの皆さんが学びたい分野、産業を絞り、テーマを設定し、研究を深めていきます。
留意事項 (Requirement など)	グローバルなビジネスに興味のある人、海外で働きたいと考えている人、日本の良さを世界の人々に理解してもらいたいと考えている人の受講を希望します
ゼミ履修に望ましい科目	特定の科目はありませんが、世界各国で起こっている出来事に興味を持てる人、海外の国々と日本の文化の比較、相違に興味を持てる人が望ましい
定員	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を行います
ゼミ受入決定者への指示	決定時、Tourism を取り巻く、直近の世界情勢を見ながら、その時点で指示します
代表的な卒業論文のテーマ	2020 年創設ゼミのため、卒業生がいませんので事例はありません。想定できるテーマは以下のとおり ・インバウンドを通じた地域活性化 ・日本におけるインバウンドビジネスの可能性
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	2020 年創設のゼミのため卒業生がおりません。

担当者名	奥田 孝晴 (おくだ たかはる)
e-mail アドレス	okuda@bunkyo.ac.jp
研究室	6406 (なお、今年度中は6号館2階の国際学部長室にいることが多い)
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木4、木5
担当科目(現行カリキュラムのみ)	[春学期] 国際学入門、近現代史基礎、アジア太平洋経済論、大学院講座 [秋学期] 国際学研究C、開発経済論、国際理解と経済、大学院講座
研究室を訪問できる時間帯	原則として月～木は出校している。昼休み、専門ゼミ開講時間、研究室前や学部長室に掲示されている予定表の空き時間に訪ねてください。
ゼミのテーマ	「国際学の鍋」づくり： 「知の運動の守備範囲」はイチロー並みに広く、大迫のようにハンパナイ。
ゼミの内容・メッセージ	今、私が取り組んでいる「国際学」の研究課題は以下のようなものです。さて、皆さんの「国際学」とはどのようなもののでしょうか？ ①平和学の視点から、「核と市民社会」の問題を考えます。原爆、原発などに象徴される「核」の問題、それが地球市民社会にあたえる負の影響。また、世界や日本の安全保障にどのように絡んでいるかも考えています。 ②グローバリゼーション・スタディーズの視点から「権力の非対称構造」としての中核—周辺差別問題を考えます。先進諸国と第三世界の関係、トウキョウと地方(たとえばトウホクやオキナワ)との関係はこの構造の「相似形」に過ぎません。この悪しき構造の研究を行います。 ③東アジア諸国・諸民族との共生をいかに図るかという課題。「東アジア共同体への道」を考えます。現在の東アジア諸国の間には「歴史認識の相違」、「領土問題」など様々な懸案が残されており、ますます進む経済的な相互依存とは真逆の敵愾心が強まっています。問題の多くは東アジアの歴史(特に近現代史)への無知や無理解に起因するところが多いのではないのでしょうか。 ④「国際学の旅」をしましょう。「事件は会議室ではなく、現場で起きている」(どこかで聞いたセリフだが...)。国際学を学ぶ現場は世界・日本にたくさんあると思います。研究室と現場との往復運動を通して、「私たちの国際学」を作っていきます。
ゼミの進め方	基本、皆との話し合いで決めたいと思いますが、3年次は基本的文献の輪読、あるいは各自の研究発表に基づく意見交換を中心に、4年次は各自が取り組むべき知的課題を見出し、卒業論文を執筆します。また青森県六ヶ所村などへ、適宜、「国際学の現場」を訪ねる旅を行いたい。
留意事項 (Requirement など)	ゼミは「知の共同体」です。共に「学び、教え・教えられる」よき仲間作りを目指しましょう。一方的なサービスを期待する「お客さん」はご遠慮ください。自身が「国際学鍋の具材」となって学ぼうとする人、それが最大・唯一の必要条件です。
ゼミ履修に望ましい科目	特にはないが、これまでの国際学部での学習をふまえ、上にあげた問題群への理解、知的関心に触れる科目の履修が望ましい。また、ゼミで行う課外研究活動や「国際学の現場」を訪ねる旅に積極的に参加して欲しい。
定員	学外での研修活動を行うことなどをふまえて、11名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科に関係なく希望者全員との面接にて選抜します。(たぶん、そう多くの希望者はいないので選抜の必要もないと思いますが。)なお選考にあたっては、上記のような問題群への知的関心・真摯な勉学姿勢を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行う。(期日は別途連絡します。)
代表的な卒業論文テーマ	「東アジア共同体の可能性」「日本人はなぜ無宗教なのか」 「テロリズム社会・求められる解決策」「読売巨人帝国主義批判」 「マイクロクレジットの日本への適用可能性に関する考察」 「眉の美学と『美意識』の歴史の変遷研究」「日韓歴史認識の差」 「第三世界の貧困とその克服への方策」「AI シンギュラリティー」など

担当者名	海津 ゆりえ (かいづ ゆりえ)
e-mail アドレス	kaizu@bunkyo.ac.jp
研究室	6307
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	3年生：木曜日 4時限目、4年生：木曜日 5時限目（原則として）
担当科目 ①～は開講セメスター	国際学入門①、新入生ゼミナール①、基礎ゼミナール②、地域プロジェクト演習Ⅰ③、地域プロジェクト演習Ⅱ④、観光資源論④、国際学A④、エコツーリズム論⑤、地域のサステナブル・デザイン論⑥、専門ゼミナールⅠ～Ⅳ、【大学院】サステナブル・ツーリズム特論、地域計画特論
研究室を訪問できる時間帯	まずはメールにてご連絡ください。 kaizu@bunkyo.ac.jp
ゼミのテーマ	エコツーリズムと持続可能な地域づくりーエコツーリズム・プランナーになろう！
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムは20世紀後半に生まれた、新しい観光の概念であり、SDGsが求めた持続可能な観光の実現形です。その基盤には地域の宝を守り、交流を通して伝え、地域の未来を創造することにあります。ゼミナールは、エコツーリズムの理解を通して学生がエコツーリズムのプランナー（企画者、計画者）になることを目標としています。学生は現場と教室、自らの学びを行き来しながら学びます。地域振興、自然、人々との交流に関心があり、フィールドワーカーを目指す学生を歓迎します。地域に寄り添い、大いに学びましょう。
ゼミの進め方	①テキストをベースにした理論研究、②地域でのフィールドワークを踏まえた事例研究、③サイド・プロジェクトへの取り組み、④プレゼンテーションで構成します。 ■基本的な流れ 専門ゼミⅠ：理論研究、事例研究 専門ゼミⅡ：地域演習 専門ゼミⅢ・Ⅳ：卒業研究と論文執筆（必須） ■その他 ・各種プロジェクト ・学外プレゼンテーション（学生シンポジウム、学会等）
留意事項 (Requirement など)	・ 合宿や有志参加による小旅行などがあり、経費がかかります。 ・ 個人課題として「一人旅」を課しています。年度末に報告会があります。
ゼミ履修に望ましい科目	地域プロジェクト演習、国際学研究 A など。3年次にはエコツーリズム論を履修すること。
定員	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	こちらから連絡します。ガイダンスとプレゼミを開講します。
代表的な卒業論文のテーマ	各自調査フィールドを設けて研究しています。エコツーリズム、地域振興、震災復興、ユニバーサル、自転車、離島など多様。研究室に見に来てください。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	山・川・海・森などの自然やアウトドア活動が好きな学生、人と接することが好きな学生、何か夢中になっているものを持っている学生など多様な学生を心待ちにしています！／海津ゼミは地域との連携を重視しています。例えばお祭りに準備から参加することが出来ます。普段は楽しむ側として参加することが多いけれど、地域との関わりを感じることができ、イベントを運営することの大変さなどを学ぶことが出来ます。自分の目で足で直接体験することが多いので、より記憶に残るような活動が多いです。／海津ゼミはゼミ内で多くの経験や知識を得ることができるので目標を達成したり自分の関心を深めたり、自分のペースで学べます。／一気に忙しくなることがありますが、諦めずに頑張ることで絶対自分のためになります。／出費はあるけれど、それ以上の経験を自分次第で得ることができます。同じ目的を持った仲間と協力して地域の活性化を目指す良い環境です。／海津ゼミはゼミを通していろんな地域へ行って地域の特徴を学ぶことができるアクティブなゼミです。一番体全体で学べてアウトドアなゼミだと思うので、地域好きな方、まちおこし、エコツーリズムに興味がある方、ぜひ私たちと一緒に楽しく学びましょう。／海津ゼミの魅力は、様々な地域プロジェクトに参加できることです。夏は先生紹介でインターンに、その他にも各種イベントやボランティア活動の案内も多いです。そのため忙しくはありますが、地域との関わりや、人との関わりを多く持つことができ、自分自身の視野を広く持てるようになると思います。

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@bunkyo.ac.jp
研究室	6418
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4,5 時限
担当科目	日本国憲法(第 2 セメスター)、法学(第 3 セメスター)、憲法(第 3 セメスター)、法と行政 A(第 4 セメスター)、法と行政 B(第 5 セメスター)、行政法 (経営学部、第 6 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	火曜・金曜昼休み～3 限、水曜 2 限～昼休み
ゼミのテーマ	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など
ゼミの内容・メッセージ	憲法学・行政法学の基礎知識を身につけるとともに、関連する社会問題について調べ、ディスカッションします。 特に昨今はコロナ禍の中で、在日外国人の人権が脅かされ、国と地方の役割分担が課題となり、子どもの貧困も深刻化しています。また営業自粛に伴い補償を求める声が高まっています。これらはすべて憲法と行政法に関連する問題です。「今ここで起こっていること」を解くヒントを一緒に探してみましょう。
ゼミの進め方	ゼミは三つのパートから構成されます。第一のパートは、ゼミ教員の担当科目を履修し、授業で取り扱う重要判例の解説を担当することによって、憲法と行政法の基礎知識を身につけることです。第二のパートは、この基礎知識をもとに個々人の関心のある領域を深掘りし、卒論に結びつけることです。第三のパートは、自治体の政策現場を知ることです。例年、実地研修を行ってききましたが、今年度はコロナ禍のため、ある自治体の「若者まちづくり課」と遠隔で結んで実施する予定です。
留意事項 (Requirement など)	・3年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。 ・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 1 科目以上 (ただし担当者は問わない。)
定員	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	リモートによる面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。(リモート参加も可)
代表的な卒業論文のテーマ	「在留外国人の社会的差別」「ヘイトスピーチと表現の自由」「フィリピン残留日本人孤児」「難民認定制度の問題点」/「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「待機児童対策の効果と課題」「学校に行かない権利」「学校事故の過失責任」/「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」「自治体における産・公・民の三者協働」「女性の労働政策」/(今年度)「性的マイノリティの人権」「社会運動とテロ活動」「中国の消費者保護法制」「AI を用いた防犯と犯罪捜査」「自動運転の法問題」「女性労働者と法」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	しっかり勉強する人向けです。教科書と判例をまとめて発表します。先生がこなして説明してくれるので、専門科目で受験する人は問題集や参考書で苦手だったところが分かるようになります。テーマ別の発表とディスカッションもあります。今年のテーマは「日本の学生運動」「LGBT の権利」「中国の人権」「育児介護休業法」などです。ディスカッションはかなり盛り上がります。ディスカッションすることで、留学生などいろいろな人の考えを知ることができました。

担当者名	北野 マグダ (きたの まぐだ)
e-mail アドレス	magda@bunkyo.ac.jp
研究室	6412
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	EIC101、基礎ゼミナール、応用演習、英語表現 A、ESP F、翻訳入門、EIC201
研究室を訪問できる時間帯	Contact for Zoom group meeting
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is "Culture in Media," and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, I will present a new topic followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis (20 pages) in English. At least a level 3 English class membership (EIC201) is strongly recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	ESP F, debate and discussion English electives
定員	10
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche Cars in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America, Comparison of Foreign and Domestic Tourist Guide Books of Tokyo

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@bunkyo.ac.jp
研究室	6317
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	エアラインビジネス論、エアラインサービス論、交通事業論、テーマパーク事業論ほか
研究室を訪問できる時間帯	今年はオンラインでの研究室訪問を実施予定です。詳細は別途お知らせします。
ゼミのテーマ	交通事業・交通政策研究 ～観光や地域における交通事業の役割と交通政策のあり方～
ゼミの内容・メッセージ	私たちは毎日の通勤通学で電車やバスを利用し、休日には航空、新幹線、高速道路などを利用して旅行に出かけます。小島ゼミではこのような航空、鉄道、自動車交通 (バス・タクシーなど) などの交通機関や、空港・道路といった交通インフラなどを研究対象としています。各交通機関の個別の問題から、交通と観光振興、交通と環境、地方交通の維持といった横断的な問題まで、交通に関わる幅広いテーマを取り上げ議論します。
ゼミの進め方	【3 年次】 春学期では交通政策に関する文献を輪読し、交通事業や交通政策に関する基本的な知識を習得します。夏休みにはゼミ旅行を実施し、交通事業者への訪問などを通して知識を深めます。秋学期ではそれらの知識を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。こうした勉強を通して、3 年次終了時までに各自卒業論文のテーマを決定することを目標とします。 【4 年次】 春学期では卒業論文の作成に向けて、研究計画書の作成や中間報告を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。
留意事項 (Requirement など)	3 年の夏休み実施するゼミ旅行では一定の費用 (最低でも 6～7 万円程度) がかります。また、これ以外にも空港見学等で交通費が発生します。
ゼミ履修に望ましい科目	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論の履修を強く勧めます。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容にもとづいて面接 (オンライン) を実施します。ゼミで学びたい内容やゼミへの貢献の可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「女性にとってやさしい交通とは」「自動運転のこれからの活用と課題」「日本の航空業界の現状と今後の課題」「交通弱者をなくすためには ～栃木県佐野市の事例から～」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	●航空系・交通系に興味がある人にはピッタリのゼミです。先生は航空や交通に関する知識が豊富で、知りたいことがあれば何でも教えてくれるので、自分の興味がある分野の理解を深めることができます。 ●私は航空業界に興味があり小島ゼミに入りました。同じ夢を持っている仲間が多い印象なので、お互い切磋琢磨できると思います。先生はユーモアがあって、オンライン授業でも、画面の前で笑顔になります。鉄道や航空に興味がある人なら間違いなく楽しいです！ ●小島ゼミというと、エアライン系を扱っているイメージが強いですが、その他にも鉄道やバス、船などといった、交通に関する幅広い範囲の知識を得ることができます。空港の事例 1 つとっても、表面的な部分だけではなく、その裏に潜む歴史や問題点なども事を学ぶことができます。ぜひ、小島ゼミで学んでみませんか？

担当者名	椎野 信雄 (しいの のぶお)
e-mail アドレス	shiino@bunkyo.ac.jp
研究室	6314 (湘南キャンパス)
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4限目
担当科目	[春学期] 国際学入門(1)、市民社会と教育(1)、交流文化論(2)、 現代思想(5)、ジェンダーと教育特論 (大学院) [秋学期] 国際学研究 B(4)、ジェンダーと国際社会(5)、 市民社会・ガバナンス特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	メールでアポ (訪問予約) をとること。オフィスアワー(木・昼休み)
ゼミのテーマ	<社会>とは何だろう。<社会>とはどのように作られてきたのだろうか。<社会>は、これからどのように作ることができるのだろうか。グローバル化する社会・国際社会・社会に貢献する、この<社会>とは、私たち一人ひとりの日々の日常生活に、隅々にまで影響を与えている実在なのです。<社会>の現実、を自分なりに理解して、これから、自分の日々の日常生活を送って行くための知恵を身につけて、「社会人」「市民」として社会に生きていくこと、がゼミのテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミは、国際学入門 (1年) や国際学研究 (2年) の学びを踏まえて、グローバル社会・国際社会・市民社会について、<社会>とは何だろう、を社会学の視点からアプローチします。社会学の視点とは、<近代社会>を対象として、<近代社会>の中で生起しているあらゆる諸現象について、自分の日常生活がどのように影響を受けているのかを理解する視点のことで、自分が興味を持っている現象について、「正解」ではなく、自分なりの理解を深め、日常生活で実践することがゼミの目標です。
ゼミの進め方	①ゼミの進め方は、私の他の授業のやり方と基本的に同じです。社会学の視点から<社会>で起こっている諸現象とは何か、それがどのように自分の日常生活に影響を与えているのか、を理解することを基本目標とします。それを通して、あなたにとっての社会の過去・現在・未来について考える力を養い、日常生活において常に考える力を使えるようになることが到達目標です。他のゼミ生のコメントについて質疑応答ができ、ディスカッションを通して、他者の問題意識を共有する力を深め、自分の社会観を考え直し、<社会>の諸現象について問いを沢山持つて実践する(地球)市民になっていきます。 ②現代社会のあり方を理解するための課題 (研究テーマ) を自己決定し、4年次に卒業論文にまとめます。「大学」的な言語コミュニケーション能力 (読書聞話・思考・発表・プレゼン・ディスカッション) を習得し卒論を仕上げます。 ③映像/アート・ソーシャルツアー・ダークツーリズムも適宜行ないます。
留意事項 (Requirement など)	椎野ゼミナール・サイト(http://www.bunkyo-shiino.jp/) を参照。
ゼミ履修に望ましい科目	履修科目において「覚えること」ではなく、「知る」「気づく」「考える」「アンラーン」することの面白さ・大切さを理解したことのある人が望ましい。
定員	9名
選抜必要時の方法	面接にて選抜します。ゼミの内容の共感度を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	決定時から3月までの課題についてオリエンテーション (学習指導) をします。
代表的な卒業論文のテーマ	現代日本の大学生の存在はどのようなものか
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	先生は面白い人です。物事に対して社会的な観点から分析し問題を見つけみんな楽しく話し合う。日々の小さな問題から世界の大きな問題までなんでも熱く語り合う。ゼミの選び方が分からない人や、何を学びたいのか分からない人はぜひ椎野ゼミへ。意見が持てるような人になっていく。今まで自分になかった視点を見つけられる。自分では何気無いことだと思っけていても、そこから発展して意見交換をする。今までの考えをアンラーンできる。日本の現状を洗いざらい知ることができる。

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@bunkyo.ac.jp
研究室	6315
出講日	(月)、火、水、木
ゼミの開講時間	木曜4限(3年)、木曜5限(4年)
担当科目	国際理解とコミュニケーション(2)、異文化理解演習(2)、応用演習(3)、英語オーラル・コミュニケーション論(4)、英語とメディア(6)、EIC301
研究室を訪問できる時間帯	(月)、火、水の昼休み。火、木の5限後など(事前にメールで連絡願います)
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々なドラマ手法(即興、スピーチ、朗読、創作劇など)に取り組み、表現力、洞察力、共感力、創造力を高めます。小学生対象の英語活動にも関わり、リーダーシップと人間関係構築力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル(全国各地の大学が参加)での創作劇発表。ITを駆使したコメディイが塩沢ゼミの伝統。海外を含めた他大学の学生との合同ドラマ合宿やゼミも実施。卒業研究は論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。オープン・キャンパスにも積極参加。海外の大学(台湾・タイ)との交流も実施(有志)し、異文化理解に努めます。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマの基礎(理論と実践)と、学童保育での英語教育の計画と実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。
留意事項 (Requirement など)	聳塔祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのための練習や合宿などもゼミ生全体で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。国内外の大学生との英語による交流や合同合宿も行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。オープン・キャンパスにもゼミの一環として参加します。授業外での練習や準備があります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語オーラル・コミュニケーション論、英語とメディア
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	書類(志望動機)と面接によりますが、場合によっては抽選もあり得ます。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もありますので、いつでも連絡が取れるように。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。大学近くの学童保育で英語の楽しさを分かち合ったり、夏合宿で海外を含めた他大学の学生と英語で交流するのも刺激的です。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。 とにかく英語で何かやりたい! というやる気のある人におすすめです。

担当者名	清水 麻帆（しみず まほ）
e-mail アドレス	mamizu31@bunkyo.ac.jp
研究室	6308
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4・5（出講日とゼミ生の予定で調整の可能性あり）
担当科目	新入生ゼミナール・基礎ゼミナール・応用演習・専門ゼミナールⅠ・専門ゼミナールⅡ 観光ビジネス論・観光政策論・キャリア形成論・国際観光論 国際ツーリズム特論・観光行動論（大学院）
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日のお昼休みとします。事前にメールで連絡してください。
ゼミのテーマ	文化を基盤とした地域振興（文化経済学・地域振興論 研究ゼミ）
ゼミの内容・メッセージ	専門分野は文化経済学や地域政策論です。主に、地域や都市の再生や維持可能な発展について文化を切り口として研究しています。たとえば、ゼミで取り扱う文化は、文化イベント（地域のお祭りや芸術祭）から音楽、ゲーム、アニメ、映画などのメディアコンテンツやポップカルチャー、絵画などのアート、演劇、伝統文化・芸能、生活文化まで広義のものとしします。地域の様々な文化資源を生かした地域社会や経済の活性化や地域政策のあり方を研究の対象としています。こうした文化資源の保全・振興と経済効果とのバランスをどのように保持しつつ地域を活性化させるのかという問題に取り組んでいます。
ゼミの進め方	主な授業の形式は、地域の持続可能な発展の理論を学修しつつ、主には各学生の関心のあるテーマを主体的に調査・研究し、それらに関するプレゼンテーションやディスカッションのアクティブラーニングで進めていきます。コロナの状況により、現時点ではフィールドワークの実施については未定です。コロナが収束し安全が確保されている状況になっていければ、実施していきたいと思っています。
留意事項 （Requirement など）	主体的に取り組む、互いに学び合い、語り合いながら、自分の軸となる考え方や意見を持てるようになります。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と課題レポートにより決定します。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	まだ卒業したゼミ生がいないため、3年生の卒業論文計画書のテーマの一例をあげておきます。「音楽イベントを活用した日本の観光・地域活性化のあり方と今後の展望（仮）」「空き家を活用した地方カフェの成長戦略（仮）」「宿泊を目的とした旅行の地方活性化の可能性～東北や岩手を中心に～（仮）」「観光公害における事前予約の有効性（仮）」「アウトドアツーリズムの可能性について～欧州圏の人びとに観光にきてもらうためにできることは何か～（仮）」「日本企業におけるSDGsへの取り組みとビジネスチャンス」など
所属ゼミ生（先輩）からの一言	先生の専門分野は、地域振興論・地域政策論です。「文化を基盤とした地域の維持可能な発展」を研究しています。個性を大切に、自由な発想でゼミ活動を行っています！やりたい事がある人もない人も、このゼミで1から一緒に創り出しましょう！2期生お待ちしております！

担当者名	菅原 周一 (すがわら しゅういち)
e-mail アドレス	suga8216@bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	新入生ゼミナール (1)、基礎ゼミ (2)、応用演習 (3)、日本経済論 (3)、金融論 (4)、国際観光と会計 (4)、国際金融論 (5)
研究室を訪問できる時間帯	研究室訪問を希望される方は上記メールアドレスにご連絡下さい。Web での追加説明を希望される方、質問のある方は、GoogleMeet を使って対応致します。希望日時を複数記入の上、上記メールアドレスに連絡を下さい。
ゼミのテーマ	これまでに学んできたことの中から、興味を持ったテーマ (地球温暖化、働き方改革、SDG's 等) を中心に企業活動の関係を追求します。 そして、これらの検討作業の延長線上にある、将来の日本経済を牽引することが期待できる企業・業界 (エアライン、ホテル、ブライダル業、旅行業等の観光業を含む) に関する研究を行います。
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、上記のような活動を通して、4 年間の集大成に相応しい成果をまとめるとともに、並行して、社会人としての基礎力、応用力を身に付けることができます。ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができます。
ゼミの進め方	3 年生の春・秋学期に興味を持ったテーマ (地球温暖化、働き方改革、SDG's 等) を中心に企業活動の関係を追求し、企業評価に関する基礎的な知識を習得します。さらに外部機関が提供するイベントにグループ参加をしながら、実践力を身に付けます。4 年生の春学期からは卒業研究の検討を、ゼミ内でディスカッションをしながら進め、秋学期に卒業論文を完成させます。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に原則として必ず参加すること、協動的、積極的であることが必要です。海外ゼミ合宿も原則として全員参加して頂きます。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	できるだけ早く個別に面接を行うとともに、今年度中にオリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「日系ホテルの現状と今後の課題」、「日本における新しい LCC 戦略の提案」、「ハワイにおける観光業の可能性と限界」、「羽田空港の利便性向上のための施策提言」、「沖縄観光の今後」、「若者の長生きリスクとリスクヘッジのための提言」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	菅原ゼミで学ぶ内容は自分の将来の役に立つことばかりです。観光業や金融業のみでなく、幅広い分野の企業を知ることができます。そのため、自分の将来にまだ迷っている方でも活動しやすいゼミです。就職活動の準備を早くから少しずつ行うなど、就活に向けた活動も積極的です。勉強だけでなく、BBQ や夏合宿、クリスマスパーティーなど、楽しいイベントもたくさんあります！今年はコロナの影響で中止になってしまいましたが、夏合宿では毎年ハワイに行っています！優しい先生の下で、ゼミ生と助け合いながら勉強に取り組み、遊ぶ時は全力で楽しむ、メリハリのある活動をしています。理解学科の人も楽しく過ごしているので、学科問わず誰でも大歓迎です！菅原ゼミで大学生活の充実した思い出を作りましょう！

担当者名	杉山 富士雄 (すぎやま ふじお)
e-mail アドレス	sugiyama@bunkyo.ac.jp
研究室	6212
出講日	火、水、金 (秋学期)
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	経済学、(産業組織論)、(観光企業の競争戦略)、(観光ビジネスの経済学)、日本の企業と社会
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の昼休み
ゼミのテーマ	食う・寝る・遊ぶの経済学
ゼミの内容・メッセージ	江戸時代から現代までの日本の観光産業、とりわけ『食う(飲食)・寝る(宿泊)・遊ぶ(旅行など)』の諸産業・企業を経済学の視点から学ぶ。和食が今日の形になったのは江戸時代の『寿司、天ぷら、蕎麦』がファーストフードとして提供されたことに始まり、さらにお江戸・日本橋を起点とする五街道沿いには旅籠(日本旅館)が宿場町ごとに整備され、おもてなしの精神が磨かれていきました。また飛鳥山公園や遊園地の浅草花屋敷も作られ、豊かになった江戸の庶民は余暇を楽しめるようになりました。 現在、星のリゾートによる地方旅館の再生、HIS のロボット接客の「変なホテル」と地方テーマパーク再生、紀尾井町ガーデンプレイスという総合宿泊・飲食施設のオープンなど 2020 年オリンピック前に、外国人観光客も激増して日本の観光産業が活性化しています。 そのような状況を踏まえ、私も 2016 年から 2018 年までの食と農をゼミのテーマとしましたが、昨年度より、観光学科学生のニーズに鑑みて、オリンピック並みに 4 年ぶりに『食う・寝る・遊ぶ・観る』全てをテーマにすることにしました。
ゼミの進め方	学生の自主的な発表を重視します。発表するテーマについては、出来るだけ観光産業などの現場まで調査に行き、文献などで収集したデータを現場の事実と合わせながら、問題の改善策やイノベーション戦略などを学生が自主的に考えられるように訓練します。 2018 年は 3 月～9 月までに、ゼミ学生の卒論テーマに合わせて、山梨県の甲府ほうとう・石和温泉桔梗屋工場、横須賀カレー・戦艦三笠・ペリー記念公園、宇都宮餃子・大谷石・新栃木スターバックス、2019 年 1 月、日清カップヌードルミュージアム、中華街のサンマー麺などの現地調査に行きました。
留意事項 (Requirement など)	2021 年もだいたい一学期に国内のみ 2 回程度の調査旅行(土曜日から日曜日の日帰旅行で早朝から夜までの調査)を予定しています。2021 年夏休みか冬休みに、沖縄観光の更なる活性化を考える 3 泊 4 日ツアーを実施。LCC 運行上の問題、ホテル人材の不足、交通渋滞、歴史や伝統文化のマーケティング不足、産官学連携の問題、国際通りの刷新など、「食う・寝る・遊び・観る」観光を実践しつつ、課題解決型集中学習をします。
ゼミ履修に望ましい科目	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目
定員	9 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	なし。
代表的な卒業論文のテーマ	代表的な卒論のテーマは、 「ディズニーとその他のテーマパークの経営比較」(2016 年 3 月卒業生) 「にら山反射炉とペリー」「ペリー来航とみなとみらいの形成」「富岡製糸場」「川越の町づくり」「湯河原の温泉街」等 (2017 年卒業生) 「横浜ベイスターズの躍進の経営的な秘密」「中国人爆買いの終焉」「日本の真珠養殖の歴史」等(2018 年卒業生) 「B 級グルメと地域活性化」(2019 年卒業生) 「新潟県湯沢町・温泉旅館の再生」(2020 年卒業生)

担当者名	孫 美幸 (そん みへん)
e-mail アドレス	sonmihen@bunkyo.ac.jp
研究室	6312
出講日	月・(火)・水・木曜日
ゼミの開講時間	上記出講日とゼミ生の予定で調整します。
担当科目	新入生ゼミ、基礎ゼミ、応用演習、専門ゼミ、 国際学入門、開発教育論、国際理解とコミュニケーション、 多文化交流特論 (大学院科目)
研究室を訪問できる時間帯	出講日で調整します。まずは、メールで連絡をください。 また、上級生と直接話せる機会を何回か設定する予定です。
ゼミのテーマ	ホリスティックアプローチを通して多文化共生社会を考える
ゼミの内容・メッセージ	「ホリスティック」というコンセプトには「つながり」「包括性」「バランス」の3つの特徴があります。世界各地の研究者や実践者のみならず、国連・ユネスコ機関でも共有されている考え方です。多様な文化背景をもつマイノリティの人々に寄り添いながら、人が人を支え育み、共に成長する社会や教育のあり方を考えていきます。 このゼミでは、異文化理解、平和、多文化共生、コミュニケーションなどを切り口に、ホリスティックな視座から捉え直していこうと思います。テキストの購読、担当者による発表、ゼミ参加者によるディスカッションを行います。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生春学期は、異文化理解とホリスティックアプローチに関するテキストを購読、発表します。中学校における多文化共生教育実践の企画にも関わります。また、「異文化理解と学びづくりを仕事にする」をテーマに NGO や旅行会社の方との交流会を行います。 ・3年生秋学期は、自身の研究テーマを決め、卒業論文の基礎固めをしていきます。ESD 先進校へのフィールドワーク、韓国や台湾の学生たちとのオンライン交流、海外で異文化理解をテーマに仕事をしている方との交流などもしながら自分の将来像ともつなげていきます。 ・4年次は昨年度までの研究をもとに、卒業論文の執筆を行っていきます。また、卒業論文を卒業後の自分の中心軸となるように整理していきます。 ・夏季には、海外の多文化・多民族社会を直接訪ねるフィールドワーク (マレーシアやシンガポールなど) を実施します。ただし、社会情勢などをみて、オンライン交流の場合もあります。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動として年間で行っている異文化理解をテーマにしたフィールドワーク (海外と国内) について、自身の予定調整や経済的なこと (20 万円程度) を準備した上で、参加してください。
ゼミ履修に望ましい科目	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群。
定員	13 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類と面接で選抜します。関心のあるテーマとの合致性やゼミ活動への参加意欲などで判断します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、3・4年生と一緒に顔合せ会を行います。その際、4月までにやっておくことなど予定をお話します。
代表的な卒業論文のテーマ	(まだ卒業したゼミ生がいないため、現4年生が取り組んでいるテーマ)「異文化理解の観点からみた英語教育」「日本と中国の旅行業界の比較検討」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・孫ゼミの魅力は、学びが広がり深まることです。将来が不安になる人も多いと思いますが、このゼミでは様々なテーマを真剣に話し合うことで自分の中で重要だと思うものに気づくことができたり、刺激や新たな発見があるため、自分を見つけるきっかけになると思います。(理解3年) ・孫ゼミの魅力は個性豊かというところです。孫先生を含め様々な国のルーツを持ったゼミ生がいます。文化の違いやあり方を議論を通じて見つめ直すことができました。思いやりと協調性のある楽しいゼミです。(観光3年)

担当者名	千葉 克裕 (ちば かつひろ)
e-mail アドレス	ch1ba@bunkyo.ac.jp
研究室	6304
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	CALL102・104, EIC C, ESP C 英語科教育法Ⅳ, 英語学概論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、オフィスアワー(火4限・水2限)にどうぞ。 ゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」
ゼミの内容・メッセージ	まずは自分の英語をしっかりと磨き、その過程を通して「英語を身につける仕組み」について考え、その理論を生かしてさらに自分の英語力を高めたり、教えたりするための知識と技術を身につけます。 読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法 (マインドマップ) など「学び方を学ぶ」ことにも重点を置きます。研究テーマや将来の仕事にかかわらず、自分の興味関心に従って学問的問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養うことが最大の目的です。 高い英語力と科学的根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、将来英語を使って仕事をしたい人や理論に基づいた英語教育をしたい人の参加をお待ちしています。”自ら学び、ものを考える人になろう！”
ゼミの進め方	3年春学期：基礎的研究力の育成 ・思考の整理法、ノートの取り方(マインドマップ) ・本の読み方 (読書法) とまとめ方・発表の仕方 ・新書をたくさん読みながら読書力と言語学の知識を蓄える ・語彙力と文法力の強化 3年秋学期：研究のためスキルアップ ・第2言語習得の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索 ・文献研究の方法 (文献検索・研究カード整理法) ・先行研究レビューとゼミ発表・研究テーマの決定 ・発音矯正 4年：卒業論文の作成 ・研究デザインの決定とデータ収集・分析と論文作成
留意事項 (Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けるようにしてください。 ・ゼミ合宿有り ・Mindmap@講座は要教材費
ゼミ履修に望ましい科目	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学など
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	TOEICを受験し、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「EFL多読学習者の読解の流暢さについての考察」「動機づけの原因帰属理論」「等価的語義理解を避けるための語彙学習」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	私たちのゼミは、やるときはやる！遊ぶときは遊ぶ！とメリハリをつけ、毎日楽しく活動しています。ゼミでは、発表や意見交換の場が多く、積極的に自分の意見を伝えたり、お互いの学びをシェアしたりしながら、成長できる場になっています。千葉先生は、英語の質問や学習方法、各々の卒論のテーマについて親身に相談に乗ってくださるとても優しい先生です。また、多読学習も積極的に行っています。言語や英語に興味がある方、教員を目指している方、ぜひ千葉ゼミと一緒に成長しましょう。多読100万語もTOEIC700点も夢じゃない！

担当者名	林 薫 (はやし かおる)
e-mail アドレス	hayashi@bunkyo.ac.jp
研究室	6306
出講日	(月)、火、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4限 5限 (+学生中心のサブゼミ)
担当科目 (セメスター)	国際理解論 (2) 地域研究D アフリカ (3) NPO とボランティアの理論 (3) 開発と国際協力 (4) 資源と国際協力 (4) 国際協力実地演習
研究室を訪問できる時間帯	Zoom で研究室説明・面談を行います。時間をセッしますのでメールしてください。 なお、9月17日から10月16日までの以下の時間帯は、説明会の時間として Zoom 会議室を原則オープンにしています。 月、火、水、土： 19:30-21:00、 木曜日の4限、5限のゼミは自由に見学に来てください。 https://zoom.us/j/4253411133?pwd=eTgrRUZUMzNOTWZXdFFHMHZUNTnJUT09 ミーティング ID: 425 341 1133 パスコード: 2Z3Wk7
ゼミのテーマ	「持続可能な世界の実現」がテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	2015年に国連は2030年までの「持続可能な開発目標」を採択しました。これは開発途上国と先進国がともに目指さなければならない目標ですが、その成否は私たちの日常生活のありかたに直接結びついています。持続可能性に関連していればテーマの設定は自由です。貧困、格差、福祉、子ども、経済、貿易、国際関係、移民と難民、気候変動、環境汚染、防災、災害復興、地域振興、その他いずれの分野も最終的な課題は「持続可能性 sustainability」に行きつきます。具体的な解決策の提示を目指します。プロジェクトの計画と評価、統計、参加型開発など、社会に出てからどこでも活用できる汎用スキルを身につけながら、実践的なチェンジメーカーになることを目指します。
ゼミの進め方	3年生の春セメスターは持続可能性の基本的な考え方を途上国の現実を通じて学びます。農村の開発の具体例を使って、ロールプレイング方式で人々の生活向上についての実習を行います。3年生後半は、ゼミ生が関心あるテーマごとにまとまってサブゼミを行います。サブゼミは学生主体の勉強会です。本ゼミではサブゼミの研究発表とディスカッションを組み合わせて、知識を深めます。4年生の春セメスターでは、サブゼミを続けながら、各ゼミ生の卒業研究のテーマを決定します。秋セメスターでは卒業研究論文を書き上げます。春の津波被災地支援活動、夏の「インド・スタディー・ツアー」のほか、学外のイベントへも積極的に参加しています。
留意事項	インドスタディーツアーへの参加は義務ではありませんが、できれば参加していただくとありがたいです。なお諸活動は新型コロナウイルスの状況で変更があります。
履修が望ましい科目	2年秋セメの「開発と国際協力」「資源と国際協力」をできる限り履修してください。
定員	11名
選抜を行う場合	面接で選抜します。積極的に参加・発言できるかどうかなどが選考基準です。
ゼミ受入決定者への指示	決定したら、3,4年のゼミになるべく顔を出すようにしてください。ゼミの機関は短いので、2年生のうちから一緒に学びたいと思います。
代表的な卒業論文のテーマ	持続可能な農村開発と指導者の育成 (栃木県のアジア学院農業跡調査) 持続可能な社会を目指してー食品ロスの問題とその社会的構造 コミュニティラジオの役割 (インド、ネパールでの地域放送の役割の調査) 子ども兵の社会復帰を目指して (ウガンダでの現地調査を踏まえて) 持続可能な平和構築 (沖縄とルワンダでの平和構築と平和教育) 教育現場から見る外国人労働者の未来 (インドネシア・マナドと茨城県大洗町)
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	林研究室では、国際開発協力を中心に「持続可能な社会」をテーマとして活動しています。国際協力の基礎知識から貧困、ジェンダー、経済、Nudge 理論、教育、子ども、環境などゼミ生が興味を持った分野を選び、様々な視点から研究を行っています。また、インドなどで、実際に開発の現場を訪れて、途上国の貧しい地域が抱える課題を現場で学んでいます。興味がある方は、是非連絡してください！ (4年 伊豆 啓汰)

担当者名	黛 陽子 (まゆずみ ようこ)
e-mail アドレス	mayuzumi@bunkyo.ac.jp
研究室	6417
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 5 限ではなく変更の可能性あり
担当科目	新入生ゼミ、応用演習、生態系と人間、 観光と国際協力、国際観光とデザイン、 インタープリテーション論(理論・応用)、情報デザイン特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	メールにて面談日時のアポイント必要 (対面またはオンライン) *ゼミ説明は動画をアップロードしますので視聴して下さい
ゼミのテーマ	* サステイナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み * バリ島ではエスニックツーリズムの学びも深める * ヘリテージ・インタープリテーションの技術と取り組みの精神の学び 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策提示」
ゼミの内容・メッセージ	黛ゼミのインタープリテーションは、観光地のヘリテージ (自然・文化遺産・生活慣習) に対し地に足が着いた立場で学生自らが深く理解し、人のガイドやメディアで伝え、さらにそれが持続可能な形でまもっていられるように援助する活動です。これは精神的な文化度の進んだ先進国で発達したものです。ヘリテージに付加価値を与えるだけでなく、観光地に人を惹き付けるマーケティングの手段としても利用できます。インタープリテーションのターゲットは、ある程度の知識や社会的地位、生活レベルの高い人々であるのが現状です。それは、ヘリテージを深く知り、守ろうと思う人々は、毎日の生活にある程度の余裕があることが必要とされるからです。この人々をお客様にするためには、各自フィールドを持って専門的かつ誠実にヘリテージを知り尽くす姿勢がもっとも大切であり、これをゼミの学びの精神としています。フィールドは、バリ島での活動が主です。現地の自然環境、文化、生活慣習、貧困などの多くの課題を直接見て知り、ヘリテージへの本当の理解者を増やす流れを作るために、 Rural Tourism+ Ethnic Tourism のビジネス化に取り組めます。日本ではあまり浸透していませんが、地球と観光発展にとってサステイナブルなツーリズムと地域産業を一緒に育てていきましょう！
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論の学び]=授業で受講 [インタープリテーション実践の学び]=ゼミ活動で実践 * 3 年時: 5 月軽井沢合宿 6 月 7 月バリ島合宿準備 8 月バリ島合宿 12 泊 * 4 年時: 卒論の取組: 毎年数名は 4 年時にもバリ島へいき、バリ島現地で調査や実験を用いた卒業論文を書きます。
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、また、体力のある学生さんをお待ちしています。本ゼミでは全員がバリ島ゼミ合宿に参加することを希望します(15 万円程度)。他に軽井沢合宿 (2 万円) と野外活動交通費数千円。
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、インタープリテーション論(理論・応用)はゼミ生全員 3 年時に必ず受講。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施する。(対面またはオンライン)
ゼミ受入決定者への指示	1 月に顔合わせ会対の実施。3 年生直前の春休みに (可能であれば) 1 泊の合宿もしくは課題 (昨年度は「リゾナーレ那須塩原」)。
代表的な卒業論文のテーマ	グリーンツーリズムビジネス化研究・地場産業の商品開発と販売手法やブランディング研究・メディアツールの制作研究など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	黛ゼミナールは、1 年を通して様々な課外活動が行われるとても活発なゼミナールです。夏に行われるバリ合宿は、実際に現地の方との交流をすることで、観光だけでは分からない本当のバリを学ぶことができます。合宿によって自己課題を見つけることができ、その後のゼミナール活動に対してとても意欲を持って取り組むことができます。バリ合宿を終えた後、ゼミナールメンバーの絆はとても硬いものになりました。黛ゼミナールは、ひとつひとつの学びが深く、とても充実したゼミ活動を行なっています。自然や人との交流が好きな学生におすすめしたいゼミナールです! (バリ島に行けた 2019 年度生)

担当者名	丸山 鋼二 (まるやま こうじ)
e-mail アドレス	maruyama@bunkyo.ac.jp
研究室	6408
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年生)、金曜日 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】 新入生ゼミ、応用演習、中国語 I 【秋学期】 近現代史基礎、外国史 A、現代中国論、中国語 I
研究室を訪問できる時間帯	出校日である火・水・金曜日など (今年度は不可)。上記のアドレスにメールしてください。必要に応じて、GoogleMeet での面談を準備します。
ゼミのテーマ	国際政治史、現代中国の諸問題、日中韓関係、中国語など
ゼミの内容・メッセージ	私自身は、中国現代史や現代中国論を中心として、国際政治史や歴史研究全般に関心があります。ゼミとしては、1) 国際政治史、2) 現代中国論、3) 中国語等に関心がある学生を募集します。具体的に、1) では、産業革命以後の近現代史、大英帝国、アヘン戦争、アメリカ資本主義発展史、第一次・第二次世界大戦、日中戦争、太平洋戦争、戦後の国際政治、国連などの国際機関のあゆみ、イラク・アフガン戦争、中国の台頭、トランプ政権など、2) では、中国共産党一党独裁、中国における言論の自由の問題、香港・台湾問題、中国の軍事問題、中国の環境問題といった現代中国に関する諸問題、あるいは「歴史問題」、日中関係、日韓関係、中韓関係、北朝鮮問題、日本外交論、日中・日韓比較文化論、国際和解学(平和学)といった日中韓関係に関する諸問題です。また、中国語を教えている関係で、中国語をさらに学びたい学生の皆さんも受け入れたいと思います。できれば夏休みなどに東アジア三カ国の歴史を知る study tour にチャレンジします。 「現在の世界と日本を知り、これからの社会を生き抜いていこう」という意志を持った学生諸君の参加を期待します。留学生の皆さんも歓迎します。基本的に「教養系のゼミ」で、いわゆるプロジェクトに重点を置くゼミではありません。
ゼミの進め方	1) 3 年次はゼミのテーマに関する基本的文献の購読と各自の発表に基づく議論が中心になります。なにを購読するかはゼミ決定後に相談します。中国語のみはゼミの時間とは別になる可能性があります。2) 夏休み等に「東アジアの歴史と現在を知る旅」(China study tour や Korea study tour 等)を行なう。3) 4 年次は各自の問題意識と知的関心に基づき、卒業論文を執筆します。論文執筆力や日本語力がアップするように指導します。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ生の主体性を尊重してやっていきますので、意欲をもってゼミにのぞんでください。
ゼミ履修に望ましい科目	1) では「近現代史基礎」「外国史 A・B」など、2) では「地域研究(東アジア)」「現代中国論」「紛争と国際協力」「平和学」「日本の地理と歴史」「日本の政治経済」、3) では「英語音声学」(外国語独特の発音に慣れてほしいので)などを推奨。
定員	9 名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科や領域に関係なく希望者全員と面接して選抜します。面接では、自分の関心のあること、いま感じていること、どんなゼミにしたいか、将来の希望、自己アピールなどをお聞きします。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後、ゼミ開始前の学習の指示等を行ないます。ゼミ決定後に実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	各自の問題関心に従って卒業論文を書いてもらいます(SDGs に沿ったものを推奨)。代表例：「戦後補償問題をどのように解決するか」「東洋医学について考える」「台湾独立問題」「インドネシア華人問題」「祖母の満洲時代」「チベットの行方」「中国の人口問題」「日中韓の教育と、そこから見る歴史」「東アジアの環境協力」「日本のメディア記者クラブのあり方について」「中国の歴史的過程と新民主主義」「非営利組織のマーケティング」「中国の環境問題(日本と中国のゴミ処理)」

担当者名	宮原 辰夫 (みやはら たつお)
e-mail アドレス	miyahara@bunkyo.ac.jp
研究室	6405
出講日	水・金曜日
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	春学期：政治学入門、3・4年専門ゼミ 秋学期：政治学入門、地域研究 (南アジア)、地域研究特論 (大学院)、 3・4年専門ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	基本的には、ゼミ生と相談して決めます。
ゼミの内容・メッセージ	ゼミの内容は、ゼミ生の興味・関心によって変わります。社会の変化に沿った内容にしています。今年もまた、IT・AI が社会にどのような影響をもたらすのかについて、ゼミ生と一緒に勉強しています。
ゼミの進め方	3年の春学期は、プログラミングに関する勉強 3年の秋学期から、各自の研究テーマを決め、インターネットやスマートフォンの機能を使い、テーマに関する情報収集・分析などを始めるつもりです。
留意事項 (Requirement など)	特にありません。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	11名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
代表的な卒業論文のテーマ	「大隅半島の DMO (観光地域づくり法人) の取組みと今後の課題」「廃校の利活用 の実態と新たな提案」「デジタル社会のスマートシティ」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	基本的に、ゼミ生は自分の好きなテーマについて自由に主体的に活動できます。先生はその主体性を尊重し、十分にサポートしてくれます。 それが宮原ゼミの特色です。

担当者名	本浜 秀彦 (もとはま ひでひこ)
e-mail アドレス	motohama@bunkyo.ac.jp
研究室	6311
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木 4 限、5 時限
担当科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」、「日本ポップカルチャー論」、「日本の伝統文化」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	月、木のお昼休み時間など (詳細は研究室のドアに掲示するなど、追って連絡します。Web 訪問を併用するかもしれません。)
ゼミのテーマ	国際日本研究
ゼミの内容・メッセージ	<p>多様な「日本」のすがたかたちを、各地域の歴史、伝統文化、現代ポップカルチャー、そして海外との比較などから捉え直し、英語で発信する、というのがゼミの目標です。目指すは、究極の「実践型雑学 (= 実践型教養) ゼミ」！ たとえ、本を読まずに街に出るのではなく、まず本を読み、それから本を片手に街に出るゼミです！！</p> <p>* 受験時、「国際日本学部」、「グローバル (国際) 教養学部」、「文化構想学部」などにも関心があった学生は、ぜひ本ゼミの検討を！</p>
ゼミの進め方	<p>「日本」の捉え方は人それぞれ、「日本」への学問的なアプローチ方法もさまざま。なので、卒論のテーマは、(文学研究者である私が指導できる範囲で) 幅広く選べます。</p> <p>とは言え、その間口の広さが、ゼミ選択のミスマッチにつながりかねないので、お互いの幸せのために、以下の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員は、文学およびビジュアル文化 (マンガ、アニメ、映画、現代美術、浮世絵など) を幅広くカバーしていますが、いわゆる“オタク”的な興味は持っておらず (しかも隠れ“体育会系”のスポーツ好き!)、むしろ社会問題に強い関心がある (新聞記者の経験もあり) 文化や芸術を、社会との関わりや歴史の文脈の中で考えています。 ・最近の研究の関心は日本の視覚文化 (ヴィジュアルカルチャー) の体系化。 ・これまでの研究は、「海」や「島」の文化とイメージ (ハワイなどの太平洋の島々)、戦争や占領と文学、文化の関係 (沖縄など)。 ・近代日本が大きく影響を受けた英国と米国の、歴史や文化、社会にも一家言あります。 <p>「失敗したこと・負けたこと・できなかったこと」を直視することから、人の成長は始まります。要領の良さや、見かけのコミュニケーションのうまさで勝負するのではなく、自分のやりたいことにむけて、努力し、継続する意思のある学生の応募を待っています！</p>
留意事項 (Requirement など)	3 年生対象のゼミ合宿を予定 (コロナ禍が収束し、状況が許すならば。)
ゼミ履修に望ましい科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」など
定員	9 人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (Web 面接も併用?) およびエッセイ (好きな小説、マンガ、アニメ、映画、現代アート、音楽、ファッションなどについて。800 字。)
ゼミ受入決定者への指示	追って連絡
代表的な卒業論文のテーマ	アニメと聖地巡礼、カワイイは正義！—現代日本の化粧文化について、現代社会と神社—航空業界と若者文化からの考察、ドキュメンタリードラマと方言、女子トイレ進化論、コンテンツ・ツーリズムとしての文学散歩、日本の男性アイドル論 など

担当者名	山崎 裕子 (やまざき ひろこ)
e-mail アドレス	yamazaki@bunkyo.ac.jp
研究室	6410
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目、5 時限目
担当科目	[春学期] 哲学、倫理学、キリスト教入門 西洋思想と国際社会、新入生ゼミナール [秋学期] 哲学、倫理学、キリスト教社会と文化、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	Google Meet でお目にかかりましょう。メールで予約してください。時間調整をします。お友達との複数での面談も可能です。
ゼミのテーマ	世界の文化と宗教を哲学する
ゼミの内容・メッセージ	世界の文化とその発想法を理解して考える力をつけることを目指し、宗教（主にキリスト教）と哲学について考えていきます。 これまでの3年次生の共通テキストは、『ソフィーの世界』『キリスト教の教え』『4つの愛』『選択の自由』『嘘の人間学』『真理論』などです。 読書を楽しむだけでなく、読書を通じて、著者とゼミ生と、そして自分と対話しましょう。自分の周囲の事柄を当たり前と思わずに、「なぜ」と問う姿勢が大切です。
ゼミの進め方	1. 3年次の春学期から秋学期の途中まで： 共通テキストをゼミ生が交代で発表し、哲学と宗教の本の読み方を習得します。 2. 3年次秋学期の後半以降： 各自のテーマに沿って発表を進めます。「なぜ」という問いを含む内容であれば、哲学や宗教の内容でなくても、O.K.です。 3. ゼミ論文は、完成すると卒業論文となります。
留意事項 (Requirement など)	山崎ゼミでは、ゼミ生同士のコミュニケーションを大切にしています。楽しいゼミにしましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談。意欲と適性を確認します。
ゼミ受入決定者への指示	入ゼミ決定後、皆でG Meet しましょう。日程は、こちらから連絡します。自分に興味があることを深めましょう。
代表的な卒業論文のテーマ	「時間の意味」 「宣教師と東洋布教－布教政策に見る異文化理解－」 「日本人の宗教観に関する一考察 －タイとフランスの宗教事情と比較して－」 「フランスにおける移民統合政策と今後の課題」 「ナチドイツ支配下におけるユダヤ人とキリスト教会」 「人は他者を愛せるか」 「鬼の正体－鬼物語とその本質－」
所属ゼミ生（先輩）からの一言	山崎ゼミでは、思想だけにとどまらない哲学を学ぶことができます。少しでも考えることが好きな方、宗教に興味がある方は、ぜひいらして下さい。思想や宗教の知識がなくても、大丈夫です（3年ゼミ生）。

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@bunkyo.ac.jp
研究室	6209
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 地域調査演習、景観と風景のまちづくり 【秋学期】 市民の環境貢献、環境コミュニケーション論、統計調査の基礎、国際化・情報化時代の社会学
研究室を訪問できる時間帯	火曜 (昼休み)、金曜 (昼休み) など (オンライン授業となった場合は、紹介資料を WEB 公開します)
ゼミのテーマ	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～
ゼミの内容・メッセージ	まちの望ましさの実現を目標に、これからの地域社会を構想します。まちづくりを、1) 市民の地域活動と地域形成 (参加と決定を含む)、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会的貢献、にぎわいの分析等と関連づけ、2) 国内外の諸問題や、より身近な生活・文化の比較考察を含め、3) さまざまなまち (地域) の姿を検討します。社会学を土台に、参加者と議論しながら考えるスタイルです。可能なかぎり現地調査も交え、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口を見つけます。そして、私たちのこれからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に 3 回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席と認めないルールにしています。また参加者は、プロジェクトチーム (研究班) に入ってもらいます。これは 3・4 年生合同で編成し、卒業研究にむけた研究を進めるグループです。月の最終週をこの時間とし、年度内に数回、報告会を開きます。合宿の他、社会調査や実習、他ゼミ (他大学) との交流、海外研修 (希望者のみ) を行い、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	みんなで作るゼミを目指し、4 月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流は、原則、全員参加です。
ゼミ履修に望ましい科目	とくに定めません。
定員	11 名 (学外での研究活動を実施する予定があるためです。)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法をメール (大学のアドレス宛) で連絡します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時と方法は個別にメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。また、卒業研究発表会のポスターも Google Drive で公開されていますので、参考にして下さい。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「アットホームで穏やかな雰囲気が特徴のゼミ」です。先輩達と積極的にコミュニケーションを取っており、学年関係なく仲が良いのも特徴です。学生主体で物事に取り組んでいるので、自分で考える力が身につきます。ゼミの学外活動として、先輩達と協力して地域との交流も行っています。充実した 2 年間で過ごせると思っています。このような山田ゼミに入っただけだと嬉しいです。

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@bunkyo.ac.jp
研究室	6305
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際協力論、紛争と国際協力、地域研究 (東南アジア)、文化人類学、農村社会開発論、フィールド調査法演習 (大学院)、開発人類学 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木 (昼休み) @6305 ゼミ訪問は木曜 (4~5 限) @6305
ゼミのテーマ	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード: 文化人類学、宗教、貧困、格差、社会的排除、移民・難民・国際労働移動、マイノリティ、コミュニティ
ゼミの内容・メッセージ	国際協力に限らず、政治や経済、自然現象など様々な出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、個人は様々な制約のなかで何を大切にし、どのように生き抜いているのでしょうか。 開発協力や地域づくり、市民活動を含め、他者とかがかわる際に、その地域や組織、人々について学ぶことから始まります。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学をベースに、個人、地域、歴史、関係性の視点を大事にします。 本ゼミでは、一つの答えや解決策を見つけることを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析することに重点を置きます。テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知 (学外でのゼミ活動) を深めていく学びの空間をつくっていききたいと考えます。
ゼミの進め方	※2 年次の終わりに合宿、または顔合わせを行い、ゼミの活動の内容について話し合っ て決めていきます。 3 年次: 春学期は、履修者が選んだ文献をいくつか講読し、問題提起・ゼミ履修者による 討論を行いつつ、それに関連した調査・実践 (学内外) を企画・実践します。秋学期 は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究発表および議論を中心とします。1 年を通 じて、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。 なお、2019 年度は平塚市の外国人 (難民) 集住地域において学習支援活動やフィール ドワークをしながら、移民と地域形成、子どもの貧困、団地問題、市民社会活動等につ いての理解を試みていました。 4 年次: 卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内 容について、報告をし、討論しながら精緻化していきます。一方で、時事問題の記事等 をテーマにし、社会人として求められるコミュニケーション力や討論の技術などを磨 いていきます。
留意事項 (Requirement など)	これまで 3 年次の夏休みに、任意参加で海外フィールドワーク研修をフィリピンにて 実施してきました (2020 年度は、3 年次終わりの春に実施予定ですが、コロナ禍のため、 バーチャルフィールドワークになる可能性が高いです)。実施の有無や内容について 5 月中旬くらいから決めていきますので、一緒に検討してください。昨年度は「社会的 マイノリティへの支援と包括的コミュニティ形成の現状と課題」をテーマに子ども の保護施設、スラム地域、国際 NGO 関与の再開発地域、社会的企業、ムスリム集住地 区にて、課題と体系的な支援のあり方 (保護、支援、自立) について聞き取りを行い、 高校生や大学生を含め、同世代の若者と交流を行いました。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」「国際協力論」「紛争と国際協力」「開発教育論」「NPO・ボランティアの 理論」、その他国際学部に関連科目を履修していることが望ましいです。
定員	12 人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。) 希望調査票の内容を重視し ますが、目的意識を持っているかどうか、周りとの協調して活動を進められるかが ポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待 したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、年度が変わる前に、顔合わせと今後のゼミの進行について打ち合わせ を行います。また、毎年 2 月に、受け入れが決定した 2 年生と 3 年生を合わせた合宿 も行い、そこで、次年度の大まかな予定を決めていきます。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	「スリランカにおける内発的発展」「タイにおける少数民族難民と教育」「在日ムスリム との付き合いかた」「LGBT という言葉の広がりとその背景」「スイスと英国から分析 する日本のフェアトレード市場の改善点」「アナキズムは実現可能か」「片目失明者の現 状と今後について」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	私たちの代では、「多文化共生を再考する」をテーマに、楽しく深い学びに努めていま す。先生を含め、互いを認め合い、尊重する文化が渡邊ゼミにはあるので、自分のやり たいこと、好きなことを学べるゼミです! (3 年生)

担当者名	A (国際法・国際関係論)
担当科目 (予定)	「国際理解と法」「国際人権法」など
ゼミのテーマ	国際法・国際関係論
ゼミの内容・メッセージ	2021年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の齊藤先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	B (ホスピタリティ)
担当科目 (予定)	「国際観光とホスピタリティ」「ホスピタリティ人材開発」「観光サービス」など
ゼミのテーマ	ホスピタリティ
ゼミの内容・メッセージ	2021年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	C (ホテルサービス、マネジメント)
担当科目 (予定)	「ホテル事業論」「ホテルサービス論」「ホテル・レストラン会計」「キャリア形成B」など
ゼミのテーマ	宿泊産業・ホテルサービス・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	2021年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	D (交流文化、文化政策)
担当科目	「交流文化論 B」「地域開発とミュージアム」など
ゼミのテーマ	交流文化・文化政策
ゼミの内容・メッセージ	2021 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	E (経営学、ビジネス論、マネジメント論)
担当科目	「国際観光とビジネス」「消費社会論」など
ゼミのテーマ	経営学・ビジネス論・マネジメント論
ゼミの内容・メッセージ	2021 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の菅原先生までお願いします。
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。